

イラク攻撃開始

米英ミサイル発射

フセイン政権打倒へ



湾岸地域で臨戦態勢に入った米軍の戦闘機（AP II 共同）

【ワシントン19日共同】米政府は十九日、イラク時間の二十日午前五時半、日本時間同十一時半すぎ、イラクに対する軍事作戦を開始した。ブッシュ米大統領が正式発表。米英軍はイラクに対し巡航ミサイルを発射するなど空海からの爆撃を始めた。

イラクの大規模破壊兵器開発疑惑の査察を実施した国連監視検査査察委員会（UNMOVIC）や国際原子力機関（IAEA）の活動にイラクのフセイン政権が協力せず、国連安全保障理事会決議一四四一に違反したとの理由で攻撃に踏み切った。ブッシュ大統領は十七日、イラクのフセイン大統領と息子二人が四十八時間以内に亡命しなければ、攻撃するとの最後通告を行ったが、フセイン大統領は十八日、これを拒否していた。

ブッシュ政権は、大規模破壊兵器を開発するフセインは世界の脅威」と明言。フセイン政権の

打倒と民主政権の樹立を攻撃の目標に掲げているが、イラク指導部は、アンズ副首相が十九日の記者会見で、凄惨せいさんな長期戦を予告するなど徹底抗戦の構え。

武力行使に踏み切ったブッシュ政権に対し、欧州やアラブ諸国などから批判が噴出するのは必至だ。

ペルシヤ湾に展開している空母エーブラハム・リンカーンなどから発進した戦闘機、爆撃機が、精密誘導爆弾や巡航ミサイルなどでイラクを空爆した。米軍は開戦直後の二日間、約三千発を投下、イラク軍の戦意喪失を狙い、早い時期に地上戦に入るとみられる。

米英両国は既に二十八万人の兵力と空母八隻などをイラク周辺に集結させた。クウェート駐留の米英軍部隊が十九日、イラク国境の非武装地帯に入るなど前線での動きを活発化させていた。

詳細は夕刊で